



Cisco UCS Server Configuration Utility User Guide, Release 6.1

First Published: 2020-08-17

Last Modified: 2021-09-14

Americas Headquarters

Cisco Systems, Inc.
170 West Tasman Drive
San Jose, CA 95134-1706
USA
<http://www.cisco.com>
Tel: 408 526-4000
800 553-NETS (6387)
Fax: 408 527-0883



第 1 章

概要

- はじめに (1 ページ)
- サポートされるプラットフォームおよびオペレーティング システム (1 ページ)
- ハードウェア要件 (2 ページ)

はじめに

Cisco UCS Server Configuration Utility (SCU) は、サーバ上のオペレーティング システムのインストールを管理するのに役立つアプリケーションです。このユーティリティは、単一のアプリケーションから OS を簡単にセットアップするのに役立ちます。

SCUを使用すると、特定のサーバにオペレーティングシステムとその関連ドライバをインストールしてサポートできます。

リリース 6.1(3c) 以降、Cisco UCS Server Configuration Utility を Intersight オペレーティング システム インストール機能とともに使用するか、Cisco UCS ラック サーバを使用したスタンドアロンモードで使用できます。Intersight オペレーティング システム インストール機能の詳細については、Intersight OS インストールの概要のドキュメントを参照してください。 https://intersight.com/help/saas/resources/operating_system_installation_overview

サポートされるプラットフォームおよびオペレーティング システム

サポートされるプラットフォームおよびオペレーティング システム

サポートされているプラットフォームとオペレーティング システムの詳細については、Intersight OS インストールで SCU を使用する場合は Intersight OS インストールの概要のドキュメントを参照してください。SCU をスタンドアロンユーティリティとして使用する場合は、Cisco UCS Server Configuration Utility の関連するリリース ノートを参照してください。 https://intersight.com/help/saas/resources/operating_system_installation_overview

ハードウェア要件

次に、UCS-SCU の最低ハードウェア要件を示します。

- **CD-ROM ドライブ:** UCS-SCU を起動し、実行するためには、USB CD/DVD-ROM ドライブが必要です。UCS-SCU を起動するために、CIMCKVM、CIMC vMedia で仮想メディアオプションも使用できます。
- **マウス:** 一部の機能では、ナビゲーション用に標準マウス (PS/2 または USB) が必要です。
- **USB ディスク オンキー デバイス:** UCS-SCU のログの保存などの機能のために、USB ディスク オンキーが必要です。
- **RAM:** 最低 1 GB の RAM。使用可能な RAM が最低推奨値より小さい場合、UCS-SCU は適切に機能しません。
- **ネットワーク アダプタ:** support.cisco.com からの OS ドライバのダウンロードなど、一部のオプション機能にはネットワーク アクセスが必要です。任意の単一のオンボード NIC アダプタ接続がサポートされます。



(注) RAID カード: RAID 設定および OS のインストールは、選択されたコントローラでサポートされます。



第 2 章

UCS Server Configuration Utility の起動

- はじめに (3 ページ)
- cisco.com から ISO イメージを取得する (3 ページ)
- UCS-SCU のブート (4 ページ)
- UCS-SCU の終了 (11 ページ)

はじめに

UCS Server Configuration Utility (SCU) は 64 ビット Linux カーネルに基づくブート可能イメージです。シスコのラック サーバーで RAID 論理ボリュームの構成、オペレーティングシステムのインストール、診断などの操作を実行できます。これは、一度に 1 つのサーバーで実行されるように設計されています。

この章では、Cisco UCS C シリーズ ラックマウント スタンドアロン サーバで SCU を使用する手順と情報を提供します。

Cisco UCS C シリーズおよび B シリーズの Cisco Intersight 管理対象サーバーで SCU を使用方法については、オペレーティングシステムのインストールを参照してください。 https://intersight.com/help/saas/resources/os_install

cisco.com から ISO イメージを取得する

サーバの ISO ファイルを検索するには、次の手順を実行します。

始める前に

この手順を実行するには、有効なシスコのログイン情報が必要です。

Step 1 [ソフトウェア ダウンロード (Software Download)] に移動します。

(注) シスコのログイン情報を使用してログインします。

Step 2 [製品の選択 (Select a Product)] > [すべて参照 (Browse All)] をクリックします。

- Step 3** 最初の列で [サーバ/ユニファイド コンピューティング (Servers - Unified Computing)] をクリックします。
- Step 4** 中央の列で [UCS C シリーズ ラック搭載スタンドアロン サーバー ソフトウェア (UCS C-Series Rack-Mount Standalone Server Software)] をクリックします。
- Step 5** 最後のカラムのサーバー モデルの名前をクリックします。
使用可能なソフトウェアのリストを含む新しいページが表示されます。
- Step 6** [ソフトウェア タイプの選択 (Select a Software Type)] リストで、[Unified Computing System (UCS) サーバー構成ユーティリティ (Unified Computing System (UCS) Server Configuration Utility)] を選択します。
[Download Software] ページが表示され、リリース バージョンおよび UCS-SCU イメージが示されます。
- Step 7** 左側のペインから該当するリリースを選択します。
- Step 8** 右側のペインにある [ダウンロード (Download)] アイコンをクリックします。
- Step 9** 次の画面に進んでライセンス契約に同意し、ISO ファイルを保存する場所を参照します。

UCS-SCU のブート

次のいずれかのオプションを使用して、UCS-SCU アプリケーションを起動できます。

- [vKVM マップ済みの vDVD の使用 \(4 ページ\)](#)
- [Cisco FlexMMC vDVD の使用 \(5 ページ\)](#)
- [CIMC マップ済みの vDVD の使用 \(9 ページ\)](#)
- [物理メディアの使用 \(11 ページ\)](#)

vKVM マップ済みの vDVD の使用

始める前に

cisco.com から UCS-SCU ISO イメージ ファイルをダウンロードします。イメージをダウンロードする方法については、[cisco.com から ISO イメージを取得する \(3 ページ\)](#) を参照してください。

- Step 1** Cisco IMC にログインします。
- Step 2** 右上のメニューから [KVM の起動 (Launch KVM)] をクリックします。
(注) ブラウザの設定によっては、**KVM サーバ証明書**を受け入れ、KVM ビューアをクリックする必要があります。
- 仮想 KVM コンソールにサーバー コンソールが表示されます。
- Step 3** [仮想メディア (Virtual Media)] > [vKVM-Mapped vDVD] を選択します。

[仮想メディアのマップ - CD/DVD] ウィンドウが表示されます。

- Step 4** ISO ファイルを参照して選択し、[Open] をクリックしてイメージをマウントします。
- Step 5** [仮想メディアのマップ-CD / DVD] ウィンドウから [マップ ドライブ (Map Drive)] を選択します。
仮想 KVM コンソールに次のメッセージが表示されます。
デバイス「vKVM-Mapped vDVD」にメディアが正常に挿入されました。
- Step 6** [電源 (Power)] > [システムの電源の投入 (Power Cycle System)] を選択します。
- Step 7** サーバーが起動したら、**F6** キーを押してブート デバイスを選択します。
ブート選択メニューが表示されます。
- Step 8** 矢印キーを使用して、**vKVM-Mapped DVD** を選択し、**Enter** キーを押します。
サーバーは UCS-SCU イメージを使用して起動し、[KVM] タブでアプリケーションを起動します。
-

Cisco FlexMMC vDVD の使用

始める前に

cisco.com から UCS-SCU ISO イメージ ファイルをダウンロードします。イメージをダウンロードする方法については、[cisco.com から ISO イメージを取得する \(3 ページ\)](#) を参照してください。

- Step 1** Cisco IMC にログインします。
- Step 2** [ナビゲーション (Navigation)] ペインの [ストレージ (Storage)] メニューをクリックします。
- Step 3** [ストレージ (Storage)] メニューで、[Cisco FlexMMC] を選択します。
- Step 4** [Cisco FlexMMC] ペインの [コピーされたファイル (Files Copied)] 領域で、[ファイルのアップロード (Upload Files)] タブをクリックします。
[Cisco FlexMMC のアップロード ファイル] ダイアログボックスが表示されます。
- Step 5** [Cisco FlexMMC のアップロード ファイル] ダイアログボックスで、次の詳細を入力します。

フィールド	説明
[パーティション (Partition)] ドロップダウン リスト	<p>パーティションのタイプ次のように指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • IMC イメージ: Cisco .iso ファイル。 • ユーザ ファイル: 任意の .iso、イメージ、またはその他のファイル形式。 <p>アップロードできるのは1つの .iso ファイルのみです。</p> <p>(注) 他のファイル形式を選択した場合、Cisco IMC はファイルをイメージファイルに変換します。</p> <p>その他のファイル形式の場合、ファイルサイズは 10 MB を超える必要があります。また、変換のために余分なスペースが必要です。</p>
[Mount Type] ドロップダウン リスト	<p>マッピングのタイプです。次のいずれかになります。</p> <p>(注) 選択するマウントタイプの通信ポートがスイッチ上で有効になっていることを確認してください。たとえば、マウントタイプとして CIFS を使用する場合、ポート 445 (CIFS の通信ポート) がスイッチ上で有効になっていることを確認します。同様に、HTTP、HTTPS、または NFS を選択する場合は、ポート 80 (HTTP の場合)、ポート 443 (HTTPS の場合)、またはポート 2049 (NFS の場合) を有効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [NFS]: ネットワーク ファイル システム。 • [CIFS]: 共通インターネットファイルシステム。 • [WWW(HTTP/HTTPS)]: HTTP ベースまたは HTTPS ベースのシステム。
[リモート共有 (Remote Share)] フィールド	<p>マップするイメージの URL。形式は選択された [Mount Type] によって異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [NFS]: serverip:/share を使用します。 • [CIFS]: serverip://share を使用します。 • [WWW(HTTP/HTTPS)]: http[s]://serverip/share を使用します。

フィールド	説明
[Remote File] フィールド	リモート共有に含まれる .iso または .img ファイルの名前と場所。

フィールド	説明
[マウント オプション (Mount Options)] フィールド	<p>カンマ区切りリストで入力される業界標準のマウントオプション。オプションは選択された [Mount Type] によって異なります。</p> <p>[NFS] を使用している場合は、このフィールドを空白のままにするか、次の中から1つ以上を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ro • noexec • noexec • soft • port=VALUE <p>[CIFS] を使用している場合は、このフィールドを空白のままにするか、次の中から1つ以上を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ro • nounix • noserverino • port=VALUE • [Ntlm]: NT LAN Manager (NTLM) セキュリティプロトコル。このオプションは、Windows 2008 R2 および Windows 2012 R2 でのみ使用します。 • vers=VALUE <p>(注) 値の形式は x.x である必要があります</p> <p>[WWW(HTTP/HTTPS)] を使用している場合は、このフィールドを空白のままにするか、次のように入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • noauto <p>(注) 仮想メディアをマウントする前に、Cisco IMC はサーバーに ping を実行することによって、エンドサーバーへの到達可能性の確認を試みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • username=VALUE • password=VALUE

フィールド	説明
[ユーザ名 (User Name)] フィールド	指定した [マウントタイプ (Mount Type)] のユーザ名 (必要な場合)。
[パスワード (Password)] フィールド	選択されたユーザー名のパスワード (必要な場合)。

Step 6 右上のメニューから[KVM の起動 (Launch KVM)] をクリックします。

(注) ブラウザの設定によっては、KVM サーバ証明書を受け入れ、KVM ビューアをクリックする必要があります。

仮想 KVM コンソールにサーバー コンソールが表示されます。

Step 7 [電源 (Power)] > [システムの電源の再投入 (ブート) (Power Cycle System (boot))]

Step 8 サーバーが起動したら、F6 キーを押してブートデバイスを選択します。

ブート選択メニューが表示されます。

Step 9 矢印キーを使用して、vKVM-Mapped vDVD を選択し、Enter キーを押します。

サーバーは UCS-SCU イメージを使用して起動し、[KVM] タブでアプリケーションを起動します。

CIMC マップ済みの vDVD の使用

始める前に

cisco.com から UCS-SCU ISO イメージファイルをダウンロードします。イメージをダウンロードする方法については、[cisco.com](#) から [ISO イメージを取得する \(3 ページ\)](#) を参照してください。

Step 1 Cisco IMC にログインします。

Step 2 [計算 (Compute)] > [リモート管理 (Remote Management)] > [仮想メディア (Virtual media)] の順に選択します。

Step 3 [仮想メディア (Virtual media)] タブ > [現在のマッピング (Current Mappings)] 領域で、必要なマッピングを確認します。

Step 4 右上のメニューから[KVM の起動 (Launch KVM)] をクリックします。

(注) ブラウザの設定によっては、KVM サーバ証明書を受け入れ、KVM ビューアをクリックする必要があります。

仮想 KVM コンソールにサーバー コンソールが表示されます。

Step 5 [仮想メディア (Virtual Media)] > [CIMC-Mapped vDVD] を選択します。

[仮想メディアのマップ - リムーバブル ディスク (Map Virtual Media - Removable Disk)] ウィンドウが表示されます。

Step 6 [仮想メディアのマップ - リムーバブル ディスク (Map Virtual Media - Removable Disk)] ウィンドウで、次の手順を実行します。

- a) CIMC-mapped デバイスに希望の名前を入力します。
- b) 次のいずれかのプロトコルを選択します。

- NFS
- CIFS
- HTTPS

デフォルトでは、HTTP/S が選択されています。

- c) ファイルの場所を次の形式で入力してください。

```
[http[s]://server-IP|DNS-name:Port/path-to-file.img
```

- d) ユーザ名とパスワードを入力します。
- e) CIMC マップ デバイスに希望の名前を入力します。
- f) (オプション) [自動再マップ (Auto-remap)] を選択します。

Step 7 [保存 (Save)] をクリックします。

Step 8 [マップ ドライブ (Map Drive)] を選択します。

ホストによってこのメディアが取り出されると、Cisco IMC は自動的にこのデバイスを再マップします。

Step 9 ISO ファイルを参照して選択し、[Open] をクリックしてイメージをマウントします。

次のメッセージが仮想 KVM コンソールに表示されます。

デバイス「CIMC-Mapped vDVD」にメディアが正常に挿入されました。

Step 10 [電源 (Power)] > [システムの電源の再投入 (ブート) (Power Cycle System (boot))]

Step 11 サーバーが起動したら、**F6** キーを押してブート デバイスを選択します。

ブート選択メニューが表示されます。

Step 12 矢印キーを使用して、**CIMC-Mapped vDVD** を選択し、**Enter** キーを押します。

サーバーは UCS-SCU イメージを使用して起動し、[KVM] タブでアプリケーションを起動します。

物理メディアの使用

始める前に

- cisco.com から UCS-SCU ISO イメージファイルをダウンロードします。イメージをダウンロードする方法については、cisco.com から [ISO イメージを取得する \(3 ページ\)](#) を参照してください。
- .iso CD を書き込むアプリケーションを使用して .iso CD 作成します。

Step 1 USB ポート経由でサーバーに USB DVD ドライブを接続します。

Step 2 DVD ドライブに物理メディアを挿入します。

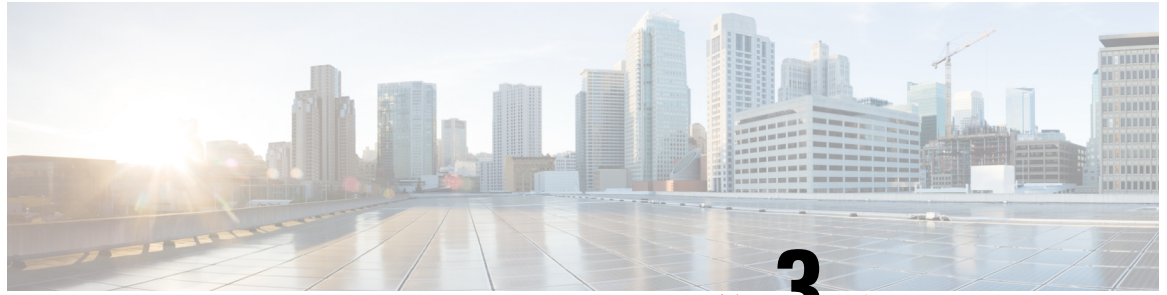
Step 3 サーバを再起動し、**F6** キーを押してブート選択メニューを表示します。ブートデバイスとして **CDROM** ドライブを選択します。

サーバーは UCS-SCU イメージを使用して起動し、アプリケーションを開始します。

UCS-SCU の終了

Step 1 ディスク ドライブから .iso ディスクを取り出します。

Step 2 [Reboot] をクリックして、サーバーのリブートを確認するために [Yes] をクリックします。



第 3 章

UCS Server Configuration Utility のユーザー インターフェイスについて

- はじめに (13 ページ)
- ライセンス契約 (13 ページ)
- UCS-SCU GUI ホーム ページ (13 ページ)

はじめに

UCS-SCU GUI は、オペレーティングシステムのインストールおよび RAID 構成などのタスクを実行できる Web ベースの管理インターフェイスです。

ライセンス契約

UCS-SCU が起動したら、最初のインターフェイスは、エンドユーザー ライセンス契約です。このライセンスに同意するには、[同意する (I Accept)] を選択して [次へ (Next)] をクリックします。

UCS-SCU GUI ホーム ページ

表 1: UCS-SCU GUI の要素

要素	説明
[Navigation] ペイン	UCS-SCU のユーザー インターフェイスの左側にあります。詳細を参照してください。
OS のインストール	GUI の右側に表示されます。[ナビゲーション (Navigation)] ペインで選択したタブに応じて、異なるページが [OS のインストール (OS Installation)] ペインに表示されます。

要素	説明
実行ログ	GUI の一番下にあります。システムのダイナミック ログを表示します。

ナビゲーション ウィンドウ

表 2: [Navigation] ペインの要素

要素	説明
OS のインストール	<p>完全な無人モードで RHEL、SLES、Windows、ESXi オペレーティング システムをインストールします。すべてのオンボードコンポーネントの最新のドライバが、オペレーティングシステムのインストール時に Tools and Drivers CD またはその他のサポートされている場所から追加されます。</p> <p>OS インストールの詳細については、オペレーティングシステムのインストール (17ページ) を参照してください。</p>
サーバの構成	<p>サーバに取り付けられたハードドライブの RAID ボリュームを構成します。RAID 構成ページへのリンクが含まれています。</p> <p>サーバー設定の詳細については、RAID レベルの構成 (39 ページ) を参照してください。</p>
Help	表示されたページの状況依存ヘルプを表示するアプリケーションのウィンドウを開きます。

Sync SD カード ボタン

同期外 RAID 1 パーティション内のディスクに書き込まれたデータを交換ディスクと同期できます。



(注) このボタンは、Cisco UCS C460 M4 サーバでのみ使用できます。

サーバの再起動

- Step 1** GUI の下部にある [リブート (Reboot)] ボタンをクリックします。
[再起動 (Reboot)] ダイアログボックスが表示されます。
- Step 2** [Yes] をクリックしてリブートします。
サーバがリブートされます。
-



第 4 章

オペレーティング システムのインストール

- はじめに (17 ページ)
- 高速インストール (18 ページ)
- カスタム インストール (19 ページ)
- ESXi カスタム インストール (19 ページ)
- Windows OS のカスタム インストール (20 ページ)
- Linux OS のカスタム インストール (21 ページ)

はじめに

Cisco UCS-SCU には、RAID ドライバを含むデバイス ドライバが組み込まれており、追加のドライバロード手順や、USB などのデバイスを使用せずに、サポートされる RAID 論理アレイにオペレーティング システムをインストールすることができます。

This chapter provides procedure and information on how to use SCU with Cisco UCS C-Series rack-mount standalone servers.

For information on how to use SCU with Cisco UCS C-Series and B-Series Cisco Intersight managed servers, see [Installing an Operating System](#).

UCS-SCU は次の OS のインストールをサポートします。

- 仮想ディスク
- NVMe デバイス
- M.2 デバイス
- JBOD モードのディスク
- SD カード
- SW RAID



(注) これは、Cisco UCS M4、M5、および M6 サーバーでのみ使用できます。



- (注) オペレーティングシステムのインストールを開始する前に、ウォッチドッグタイマーを無効にしてください。この機能がイネーブルで、値が OS のインストールに必要な時間よりも小さい期間に設定されていると、オペレーティングシステムのインストールプロセスは中断されます。このウォッチドッグタイマー機能は、指定された期間後に自動的にサーバーをリブートするか、電源をオフにします。

オペレーティングシステムをインストールするには、次の2つの方法があります。

- **高速インストール (18 ページ)** : デフォルト設定を使用してオペレーティングシステムをインストールするには、[Quick Install] オプションを使用します。
- **カスタムインストール (19 ページ)** : オペレーティングシステムをインストールする前にデフォルト設定を変更するには、[Custom Install] オプションを使用します。

高速インストール

[Quick Install] オプションでは、デフォルトパラメータを使用してオペレーティングシステムをすばやくインストールできます。ターゲット OS に応じたデフォルトパラメータを示す [OS Install] ページを表示できます。高速インストールはユーザー入力を必要としない方法であり、ワンクリックでオペレーティングシステムをインストールする方法です。

始める前に

物理/仮想/論理ディスクにOSをインストールする場合は、オペレーティングシステムをインストールする前に、仮想/論理ディスクが作成されていることを確認します。論理ディスクが作成されない場合、ディスクの詳細が **[デフォルト設定 (Default Settings)]** 領域の下に表示されません。

- Step 1** 左側のナビゲーションペインで、**[OS のインストール (OS Installation)]** をクリックします。
[OS のインストール (OS Installation)] ページにすべての OS インストールのオプションが表示されます。
- Step 2** **[OS カテゴリ (OS category)]** ドロップダウンリストから、目的のオペレーティングシステムを選択します。
- Step 3** **[OS バージョン (OS Version)]** ドロップダウンリストから、該当するバージョンを選択します。
- Step 4** **[OS エディション (OS edition)]** ドロップダウンリストから、該当するエディションを選択します。
(注) これは、Windows オペレーティングシステムでのみ使用できます。
- Step 5** **[インストール用のディスク (Installing Disk)]** ドロップダウンリストから、OS をインストールするディスクを選択します。
- Step 6** **[クイックインストール (Quick Install)]** をクリックすると、インストールが開始されます。
- Step 7** **[はい (Yes)]** をクリックして確定します。
- Step 8** インストールが完了したら、デフォルトのパスワードを使用してログインします。

(注) 工場出荷時のデフォルトパスワードは **Pa55w0rd@** です。シスコは最初のログイン後に、パスワードを変更することを推奨します。

カスタム インストール

[Custom Install] オプションでは、デフォルト設定をカスタマイズできます。カスタム インストールについては、次を参照してください。

- [ESXi のインストール \(19 ページ\)](#)
- [Windows Server オペレーティングシステムのインストール \(20 ページ\)](#)
- [Linux Server Series オペレーティングシステムのインストール \(21 ページ\)](#)

ESXi カスタム インストール

ESXi のインストール

ESXi のインストール オプションでは、オペレーティング システムをインストールしてデフォルト設定をカスタマイズできます。



(注) ESXi のインストールは、HV パーティションで仮想ドライブを有効にし、ホストを再起動した後、Cisco UCS C220 M4/M5 および C240 M4/M5 サーバの SD カードでもサポートされます。

- Step 1** 左側のナビゲーション ペインで、**[OS のインストール (OS Installation)]** をクリックします。
[OS のインストール (OS Installation)] ページにすべての OS インストールのオプションが表示されます。
- Step 2** **[OSカテゴリ (OS category)]** ドロップダウンリストから、**[VMware]** を選択します。
- Step 3** **[OS バージョン (OS Version)]** ドロップダウン リストから、該当する ESXi バージョンを選択します。
- Step 4** **[インストール用のディスク (Installing Disk)]** ドロップダウン リストから、ディスクの保存場所を選択します。
- Step 5** **[カスタム インストール (Custom Install)]** ボタンをクリックします。
選択した ESXi バージョンの **[VMware ESXi のカスタム インストール (VMware ESXi Custom Install)]** ページが表示されます。
- Step 6** **[VMware ESXi のカスタム インストール (VMware ESXi Custom Install)]** ページで次の手順を実行します。
a) **[基本構成 (Basic Configuration)]** 領域では、次のことを行ってください。

1. [キーボード (**Keyboard**)] ドロップダウンリストから、該当する言語を選択します。
デフォルトでは英語に設定されています。
 2. [ルートパスワード (**Root Password**)] フィールドに、ルートパスワードを入力します。
 3. [ルートパスワードの確認 (**Confirm Root Password**)] フィールドにルートパスワードを再入力します。
 4. [プロダクトキー (**Product key**)] フィールドに、プロダクトライセンス キーを入力します。
- b) [インストール用ディスク (**Installation Disk**)] 領域では、[インストールディスクの選択 \(47 ページ\)](#) の手順を実行します。
- c) [ネットワーク設定 (**Network Settings**)] 領域では、[ネットワーク設定 \(47 ページ\)](#) の手順を実行します。

Windows OS のカスタム インストール

Windows Server オペレーティングシステムのインストール

カスタム設定で Windows Server OS をインストールするには、次の手順を実行します。

- Step 1** 左側のナビゲーション ペインで、[OS のインストール (**OS Installation**)] をクリックします。
[OS のインストール (**OS Installation**)] ページにすべての OS インストールのオプションが表示されます。
- Step 2** [OSカテゴリ (**OS category**)] ドロップダウンリストから、[**Windows**] を選択します。
- Step 3** [OS バージョン (**OS Version**)] ドロップダウンリストから、該当する Windows バージョンを選択します。
- Step 4** [OS エディション (**OS edition**)] ドロップダウンリストから、該当するエディションを選択します。
- Step 5** [インストール用のディスク (**Installing Disk**)] ドロップダウンリストから、ディスクの保存場所を選択します。
- Step 6** [カスタム インストール (**Custom Install**)] をクリックして、インストールを開始します。
選択した Windows バージョンの [Windows のカスタム インストール (**Windows Custom Install**)] ページが表示されます。
- Step 7** **Windows のカスタム インストール (**Windows Custom Install**)** ページで次の手順を実行します。
- a) [基本構成 (**Basic Configuration**)] 領域では、次のことを行ってください。
 1. [Time Zone] ドロップダウンリストから、タイムゾーンを選択します。
 2. [言語 (**Language**)] ドロップダウンリストから言語を選択します。
 3. [管理者パスワード (**Administrator Password**)] フィールドに、新しい管理者パスワードを入力します。

4. [管理者パスワードの確認 (Confirm Administrator Password)] フィールドに、パスワードを再入力します。
 5. [組織 (Organization)] フィールドに、管理者の組織名を入力します。
最大文字数は 15 文字です。
 6. [ワークグループ (Workgroup)] フィールドにワークグループ名を入力します。
最大文字数は 20 文字です。
 7. [ホスト名 (Host Name)] フィールドに Windows ホストを入力します。
 8. [自動ログオン (Auto Logon)] ドロップダウンリストから、[オン (ON)] または [オフ (OFF)] を選択します。
 9. [プロダクト キー (Product key)] フィールドに、OS ライセンス キーを入力します。
- b) [インストール用ディスク (Installation Disk)] 領域では、[インストール ディスクの選択 \(47 ページ\)](#) の手順を実行します。
- c) [ネットワーク設定 (Network Settings)] 領域では、[ネットワーク設定 \(47 ページ\)](#) の手順を実行します。
- d) [インストール用ドライブ (Installation Drive)] 領域で、[インストール ドライバの選択 \(48 ページ\)](#) の手順を実行します。

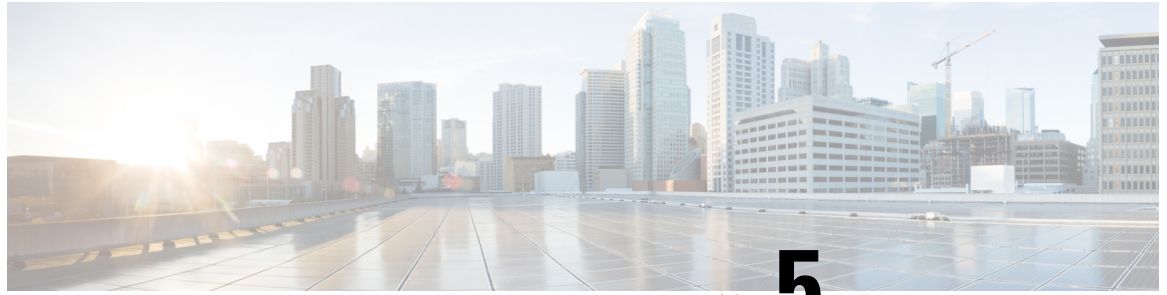
Linux OS のカスタム インストール

Linux Server Series オペレーティング システムのインストール

カスタム設定で Linux サーバー OS をインストールするには、次の手順を実行します。

- Step 1** 左側のナビゲーション ペインで、[OS のインストール (OS Installation)] をクリックします。
[OS のインストール (OS Installation)] ページにすべての OS インストールのオプションが表示されます。
- Step 2** [OS カテゴリ (OS category)] ドロップダウン リストから、[Linux] を選択します。
- Step 3** [OS バージョン (OS Version)] ドロップダウン リストから、該当する Linux バージョンを選択します。
- Step 4** [インストール用のディスク (Installing Disk)] ドロップダウン リストから、ディスクの保存場所を選択します。
- Step 5** [カスタム インストール (Custom Install)] をクリックして、インストールを開始します。
選択した ESXi バージョンの [VMware ESXi のカスタム インストール (VMware ESXi Custom Install)] ページが表示されます。
- Step 6** [Linux カスタム インストール (Linux Custom Install)] ページで次の手順を実行します。

- a) [基本構成 (Basic Configuration)] 領域では、次のことを行ってください。
 1. [キーボード (Keyboard)] ドロップダウンリストから、該当する言語を選択します。
 2. [タイムゾーン (Timezone)] ドロップダウンリストから該当するタイムゾーンを選択します。
 3. [言語 (Language)] ドロップダウンリストから、該当する言語を選択します。
 4. [ルートパスワード (Root Password)] フィールドに、ルートパスワードを入力します。
 5. [ルートパスワードの確認 (Confirm Root Password)] フィールドにルートパスワードを再入力します。
 - b) [インストール用ディスク (Installation Disk)] 領域では、[インストールディスクの選択 \(47 ページ\)](#) の手順を実行します。
 - c) [パッケージの選択 (Package Selection)] 領域で、該当するパッケージを選択します。
 - d) [ネットワーク設定 (Network Settings)] 領域で、[ネットワーク設定 \(47 ページ\)](#) の手順を実行します。
 - e) [インストール用ドライブ (Installation Drive)] 領域で、[インストールドライブの選択 \(48 ページ\)](#) の手順を実行します。
-



第 5 章

非双方向オペレーティング システムのインストール

この章は、次の項で構成されています。

- [非双方向オペレーティング システムのインストール \(23 ページ\)](#)
- [niscu.cfg ファイルの変更 \(24 ページ\)](#)
- [Modifying conf_file の変更 \(30 ページ\)](#)
- [OS 展開を開始するための Python スクリプトの実行 \(32 ページ\)](#)
- [コマンドを使用したオペレーティング システムのインストール \(33 ページ\)](#)
- [conf_file および niscu.cfg ファイルの例 \(36 ページ\)](#)

非双方向オペレーティング システムのインストール

非双方向サーバー構成ユーティリティ (NI-SCU) は、ユーザーの介入なしでオペレーティング システムを展開するのに役立ちます。

NI-SCU を使用してオペレーティング システムをインストールするには、次の手順を実行します。

- `niscu.cfg` Config ファイルを変更して、ターゲット サーバ、SCU ISO ファイルの場所、ログ収集の詳細などの情報を含めます。
- [niscu.cfg ファイルの変更 \(24 ページ\)](#) を参照してください。
- [Modifying conf_file の変更 \(30 ページ\)](#) を参照してください。
- キックスタート インストール用の応答ファイルを準備します。

サンプル応答ファイルについては、「[カスタム OS のインストール例](#)」の章を参照してください。

- `os_install-4.2.yc.yyyymmddab.py` スクリプトを実行して、インストールを開始します。
「[OS 展開を開始するための Python スクリプトの実行 \(32 ページ\)](#)」を参照してください。

niscu.cfg ファイルの変更

非インタラクティブ オペレーティングシステムのインストールでは、最初に niscu.cfg ファイルを設定する必要があります。

niscu.cfg ファイルは以下のセクションで構成されています。

- デフォルト (24 ページ)
- SCU (24 ページ)
- ログ収集 (25 ページ)
- OS (26 ページ)
- 応答ファイル (27 ページ)
- ターゲット システム (28 ページ)

各セクションには一意の名前を付ける必要があります。セクション名は、ユーザが指定します。

デフォルト

[デフォルト (Default)] セクションは、次のパラメータで構成されます。

表 3: デフォルト セクションのパラメータ

パラメータ	説明
[section_name]	セクション名を入力します。
use_http_secure =	HTTPタイプ。 デフォルト値は「はい (Yes)」です。接続がセキュアでない場合は「いいえ (No)」と入力します。
update_timeout =	Python スクリプトが開始されてからアクティブになるまでの時間 (分単位)。デフォルト値は 120 分です。有効な範囲は 30 ~ 240 分です。

例

```
[defaults]
use_http_secure=yes
update_timeout=120
```

SCU

[SCU] セクションで、SCU ISO イメージが存在する共有の IP アドレスとアクセスの詳細を入力します。

SCU セクションは、次のパラメータで構成されます。

表 4: SCU セクションのパラメータ

パラメータ	説明
[section_name]	セクション名を入力します。
isoshareip=	SCU ISO 共有の IP アドレス。
isosharepath=	共有内の ISO イメージの場所。
imagefile=	SCU ISO イメージの名前。
isosharetype=	共有タイプ。次の共有タイプがサポートされています。 <ul style="list-style-type: none"> • NFS • CIFS • WWW (HTTP または HTTPS)
isoshareuser=	共有にアクセスするためのユーザーログイン情報。
isosharepassword=	
bootmedium=	ブートに使用するメディア。次のタイプがサポートされます。 <ul style="list-style-type: none"> • vmedia: vmedia から起動します。 • flexmmc: eMMC から起動します。 • microsd: microsd から起動します。

例

```
[scu_iso]
isoshareip=192.0.2.10
isosharepath=/cifsshare
imagefile=ucs-cxxx-scu-5.0.0.39.iso
isosharetype=cifs
isoshareuser=Administrator
isosharepassword=John123
bootmedium=vmedia
```

ログ収集

[ログ収集 (Log Collection)] セクションで、インストールログが保存される共有の IP アドレスとアクセスの詳細を入力します。

[ログ収集 (Log Collection)] セクションは、次のパラメータで構成されます。

表 5: [ログ収集 (Log Collection)]セクションのパラメータ

パラメータ	説明
[section_name]	セクション名を入力します。
remshareip=	インストール中にログファイルが生成される共有の IP アドレス。
remsharepath=	共有内のログファイルの場所。インストール中に生成されたログデータは、このファイルに保存されます。 共有の絶対パスを入力します。
remsharefile=	リモート サーバに SCU NI-OSI ログを保存するファイル名。 デフォルト値は share_file です。
remsharetype=	共有へのアクセスに使用されるプロトコルタイプ。次のプロトコルがサポートされています。 <ul style="list-style-type: none"> • SCP • SFTP
remshareuser= remsharepassword=	共有にアクセスするためのユーザーログイン情報。

例

```
[log_info]
remshareip=192.0.2.100
remsharepath=PATH
remsharefile=share_file
remsharetype=scp
remshareuser=user
remsharepassword=xxxx
```

OS

[OS]セクションで、設定ファイルがある共有のアクセスの詳細を指定します。設定ファイルには、niscu.cfg で使用されるオペレーティングシステムの詳細が含まれています。[OS]セクションは、単一のオペレーティングシステム専用です。別の OS をインストールする場合は、対応する設定ファイルでこのセクションを繰り返します。config_file の詳細については、[Modifying conf_file の変更 \(30 ページ\)](#) を参照してください。

OS セクションは、次のパラメータで構成されます。

表 6: OS セクションのパラメータ

パラメータ	説明
[section_name]	セクション名を入力します。 ここで指定した名前は、[ターゲット サーバ (Target Server)] セクションの config_section パラメータの値として使用する必要があります。
ip=	Config ファイルがある共有の IP アドレス。
path=	共有内の Config ファイルの場所。
file=	オペレーティングシステムの詳細を含む Config ファイル。
username=	共有にアクセスするためのユーザーログイン情報。
password=	
protocol=	共有へのアクセスに使用されるプロトコル。 次のプロトコルがサポートされています。 <ul style="list-style-type: none"> • SCP • SFTP • HTTP • TFTP

例

```
[OS_iso]
ip=192.0.2.200
path=/var/www/html/huu
file=conf_file
username=root
password=Huudefault369
protocol=scp
```

応答ファイル

[応答ファイル (Answer File)] セクションで、応答ファイルがある共有のアクセスの詳細を入力します。応答ファイルには、カスタム OS 展開に関する詳細が含まれています。デフォルト設定でオペレーティングシステムをインストールする場合 (クイックインストール)、このセクションはオプションです。

表 7: 応答ファイル セクションのパラメータ

パラメータ	説明
[section_name]	セクション名を入力します。 ここで定義した名前は、ターゲット サーバ セクションの「answerfile_section」パラメータの値として使用する必要があります。
ip=	応答ファイルを含む共有の IP アドレス。
path=	共有内の応答ファイルの場所。
file=	キックスタートファイル。カスタムインストールの場合、必要なインストールの詳細がキックスタート ファイルに含まれています。
username=	共有にアクセスするためのユーザー ログイン情報。
password=	
protocol=	共有のマウントに使用されるプロトコル タイプ。 次のプロトコルがサポートされています。 <ul style="list-style-type: none"> • SCP • SFTP • HTTP • TFTP

例

```
[OS_answerfile]
ip=192.0.2.254
path=/home/SCU/NI_SCU/Files/
file=esxi_ks.cfg
username=root
password=root@123
protocol=scp
```

ターゲット システム

このセクションでは、オペレーティングシステムがインストールされているターゲットサーバの詳細を入力します。このセクションには、niscu.cfg ファイルに渡される Config ファイルと応答ファイルの詳細も含まれています。複数のサーバにオペレーティングシステムを展開する場合は、ターゲットサーバ、Config ファイル、および応答ファイルの詳細を使用してこのセクションを繰り返します。

表 8: [ターゲットシステム (Target System)] セクションのパラメータ

パラメータ	説明
[section_name]	このセクションに名前を付ける場合は、cimcの後にアンダースコア (_) と数字の形式を使用します。番号は、ターゲットサーバインスタンスを定義します。
address=	OS がインストールされているターゲットサーバの IP アドレス。
user=	ターゲットサーバにアクセスするためのユーザー ログイン情報。
password=	
imagefile=	画像ファイル名
config_section =	OS セクションの名前をここに入力する必要があります。たとえば、OSセクション名が「rhel_iso」の場合は、その名前をここに入力します。
servernode =	OS をインストールするノードを選択します。このオプションは、C3260およびS3260 M4サーバにのみ適用されます。 1 を入力してノード 1 を選択します。2 を入力してノード 2 を選択します。「all」と入力して両方のノードを選択します。
[answerfile]	[応答ファイル (Answer File)] セクションの名前をここに入力します。たとえば、[応答ファイル (Answer File)] セクションが「OS_answerfile」の場合は、その名前をここに入力します。 これは省略可能なパラメータです。[応答ファイル (Answer file)] セクションは、カスタムインストールの場合にのみ必要です。

例

```
[cimc_1]
address=192.0.2.10
user=admin
password=Cisucs891
imagefile=ucs-cxxx-scu-5.0.0.39.iso
config_section=OS_iso
servernode=1
answerfile_section=OS_answerfile
```

```
[cimc_2]
address=192.0.2.20
user=admin
password=Ciscoucs345
imagefile=ucs-cxxx-scu-5.0.0.39.iso
config_section=OS_iso
servernode=2
answerfile_section=OS_answerfile
```

Modifying conf_file の変更

conf_file には、ターゲットサーバーに展開されているオペレーティングシステムの詳細が含まれています。conf_file には、次のパラメータが含まれます。

表 9: conf_file のパラメータ

パラメータ	説明
shareMapType:	共有タイプ。次の共有タイプがサポートされています。 <ul style="list-style-type: none"> • NFS • CIFS • WWW (HTTP および HTTPS)
shareIP:	OS ISO ファイルが保存されている共有の IP アドレス。
sharePath:	OS ISO ファイルの場所。
sharefile:	OS ISO ファイルの名前。
username:	共有にアクセスするためのユーザーログイン情報。 ユーザ名とパスワードを入力します。
パスワード:	
osName:	オペレーティングシステムのフォーマット。 オペレーティングシステムのフォーマットについては、 Modifying conf_file の変更 を参照してください。

パラメータ	説明
osDrive:	<p>オペレーティングシステムがインストールされているドライブ。</p> <p>たとえば、sdd と sde は 1 番目と 2 番目の VD を表します。</p> <p>ただし、ディスクの列挙は、設定されている JBOD と VD の数によって異なります。単一の JBOD が構成されているとします。次に、JBOD が最初に列挙され、sde と sdf が最初と 2 番目の VD を表します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • DriveSerialNumber: Z1W4PB480000R610JQWP#OSをインストールする必要があるLSI/Noe-ValleyRAIDコントローラーまたはNVMeディスクに接続されているドライブのシリアル番号。 • StorageControllerSlotID: MRAID#コントローラスロット ID。DriveSerialNumber が存在する場合、これは無視されます。 <p>VirtualDriveNumber: 0 #VD OSをインストールする必要があるドライブの番号。</p> <p>LSI/Noe-Valley RAID コントローラの場合は、StorageControllerSlotID とともに VirtualDriveNumber を指定する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • VirtualDriveName: OS をインストールする必要があるハイパーバイザ #VD 名。SD カードドライブにのみ適用されます。 <p>(注) 上記のオプションは排他的です。上記のいずれかを指定できます。</p>
Edition:	<p>Windows パラメータのみ。このパラメータは、Windows のカスタム インストールとクイックインストールの両方に適用されます。</p> <p>次のエディションがサポートされています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 標準 • DATACENTER • STANDARDCORE • DATACENTERCORE

OS 展開を開始するための Python スクリプトの実行

例

```

shareMapType:www
shareIp:192.0.2.100
sharePath:/hvu
shareFile:VMware-VMvisor-Installer-5-5-0_update03-3116895_x86_64.iso
userName:root
password:HuuWelcome123
osName:esxi5u5x64
osDrive:/dev/sde
Edition:STANDARD
MediaType:Local
Interface:eth0
BootProto:static
IP:192.0.2.254
Subnet:255.255.255.0
Gateway:192.0.2.100
DNS:192.0.2.100

```

次の表に、オペレーティングシステムフォーマットの例をいくつか示します。

表 10: オペレーティングシステムのフォーマット

オペレーティングシステム	バージョン	形式
RHEL	RHEL 8.0	rhe18ux64
	RHEL 8.4	rhe18u4x64
SLES	SLES 15 SP3	sles15sp3x64
	SLES 15.0	sles15x64
Ubuntu	Ubuntu 20.4.2	ubuntu20042x64
Esxi	Esxi 7.0U3	esxi7u03x64
	Esxi 6.7.3	esxi6u73x64
Windows	Windows Server 2019 および 2022	w2k19x64
		w2k22x64

OS 展開を開始するための Python スクリプトの実行

手順

	コマンドまたはアクション	目的
Step 1	Python スクリプトを実行する Linux クライアントシステムに次のコンポーネントをインストールします。	<ul style="list-style-type: none"> 4.1.1 以前の Python 2.7.x 4.2.1 以降の Python 3.x Open SSL バージョン 1.0.1e-fips 以降

	コマンドまたはアクション	目的
Step 2	Linux クライアント システムで、次のコマンドを実行します。	<p>python os_install-4.2.yc.yyyymmddab.py -c niscu.cfg</p> <p>ここで、<code>os_install-4.2.yc.yyyymmddab.py</code> は Python スクリプトで、<code>niscu.cfg</code> は SCU ISO イメージと OS の詳細に関する情報を含む設定ファイルです。</p> <p>Python スクリプトが実行されると、ターゲットサーバが SCU ISO で起動します。SCU が起動すると、構成ファイルにマッピングされている OS ISO イメージがマウントされます。SCU は、ターゲットサーバにオペレーティングシステムをインストールします。</p>

コマンドを使用したオペレーティングシステムのインストール

単一のサーバにオペレーティングシステムをインストールするには、次のオプションを使用します。

表 11: 単一サーバに OS をインストールするオプション

オプション	説明
<code>-a a.b.c.d, --address=a.b.c.d</code>	ターゲットサーバの IP アドレス。
<code>-u USERNAME, --user=USERNAME</code>	ターゲットサーバにアクセスするための管理者ユーザーログイン情報。
<code>-p PASSWORD, --password=PASSWORD</code>	
<code>-m scu.iso, --imagefile=scu.iso</code>	SCU ISO ファイルの名前。
<code>-i a.b.c.d, --isoshareip=a.b.c.d</code>	SCU ISO イメージが存在するリモート共有の IP アドレス。
<code>-d /data/image, --isosharepath=/data/image</code>	共有内の ISO イメージの場所。
<code>-t cifs/nfs/www, --isosharetype=cifs/nfs/www</code>	<p>リモート共有のタイプ。</p> <p>次の共有タイプがサポートされています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • CIFS • NFS • WWW (HTTP または HTTPS)

オプション	説明
-r ISOSHAREUSER, --isoshareuser=ISOSHAREUSER	SCU ISO イメージがある共有にアクセスするための管理者ユーザー ログイン情報。
-w ISOSHAREPASSWORD, --isosharepassword=ISOSHAREPASSWORD	
-o BOOTMEDIUM, --bootMedium=BOOTMEDIUM	更新に使用されるブートメディア。 次の共有タイプがサポートされています。 <ul style="list-style-type: none"> • vmedia • microsd • flexmmc
-q TIMEOUT, --timeout=TIMEOUT	NISCU OS Installation timeout
-M ISOMOUNTOPTION, --isomountoption=ISOMOUNTOPTION	CIFS 共有の場合は、マウントオプションを使用してセキュリティオプションを指定します。
-I a.b.c.d, --remshareip=a.b.c.d	スナップショットの結果が保存されるリモート共有の IP アドレス。
-D /data/image, --remsharepath=/data/image	スナップショットを保存するディレクトリが共有になります。
-F REMOTESHAREFILE, --remoteShareFile=REMOTESHAREFILE	共有ファイルの名前。
-T scp/sftp, --remsharetype=scp/sftp	共有のタイプ。 次のプロトコルがサポートされています。 <ul style="list-style-type: none"> • SCP • SFTP
-U REMSHAREUSER, --remshareuser=REMSHAREUSER	スナップショットの結果を保存するために共有にアクセスするためのユーザーログイン情報。
-W REMSHAREPASSWORD, --remsharepassword=REMSHAREPASSWORD	
-x CONFIGSHAREIP, --configShareIp=CONFIGSHAREIP	設定ファイルがあるリモート共有の IP アドレス。
-y CONFIGSHAREPATH, --configSharePath=CONFIGSHAREPATH	共有内の設定ファイルの場所へのパス。
-z CONFIGSHAREFILE, --configShareFile=CONFIGSHAREFILE	Config ファイルの名前。
-j CONFIGSHARETYPE, --configShareType=CONFIGSHARETYPE	共有のタイプ。

オプション	説明
-b CONFIGSHAREUSERNAME, --configShareUsername=CONFIGSHAREUSERNAME	Config ファイルが存在する共有にアクセスするためのユーザー ログイン情報。
-e CONFIGSHAREPASSWORD, --configSharePassword=CONFIGSHAREPASSWORD	
-X ANSWERFILESHAREIP, --answerFileShareIp=ANSWERFILESHAREIP	応答ファイルが存在する共有の IP アドレス。
-Y ANSWERFILESHAREPATH, --answerFileSharePath=ANSWERFILESHAREPATH	共有内の応答ファイルの場所へのパス。
-Z ANSWERFILESHAREFILE, --answerFileShareFile=ANSWERFILESHAREFILE	応答ファイルの名前。
-J ANSWERFILESHARETYPE, --answerFileShareType=ANSWERFILESHARETYPE	共有のタイプ。
-B ANSWERFILEUSERNAME, --answerFileUsername=ANSWERFILEUSERNAME	応答ファイルがある共有にアクセスするためのユーザー ログイン情報。
-E ANSWERFILEPASSWORD, --answerFilePassword=ANSWERFILEPASSWORD	
-N SERVERNODE, --serverNode=SERVERNODE	OS をインストールするノードを選択します。 このオプションは、C3260 および S3260 M4 サーバーにのみ適用されます。 1 と入力してノード 1 を選択します。2 と入力してノード 2 を選択します。ALL と入力して、両方のノードを選択します。
-f LOGFILE, --logrecordfile=LOGFILE	ログ データを含むログ ファイルの名前。

例

例 1: クイック インストールのオプション

この例では、コマンドオプションは 198.51.10.10 の Windows のクイック インストールに役立ちます。SCU ISO イメージは 198.51.100.100 にあります。conf_file は 198.51.100.100 に配置されます。OS インストール ログ ファイルは、198.51.100.254 に保存されます。NI-SCU スクリプト ログ ファイルは、スクリプトが実行される同じクライアントシステムに保存されます。

```
python3 os_install.py -a 198.51.100.10 -u user1 -p passwd
-m ucs-cxxx-scu-6.2.xx.iso -o vmedia -i 198.51.100.100
-d /utils_share/scu/kb -t nfs -r user2 -w passwd1 -I 198.51.100.100
-D /niscu/new_TH2U
-F niscu_cli_remsharefile1 -T scp -U user3 -W passwd2 -x 198.51.100.254
-y /niscu/new_TH2U
-z conf_file -j sftp -b abcd -e passwd -f log_latest
```

例 2: カスタム インストールのオプション

この例では、コマンド オプションは 198.51.10.10 の Windows のカスタム インストールに役立ちます。SCU ISO イメージは 198.51.100.100 にあります。conf_file は 198.51.100.100 に配置されます。カスタムインストールに必要な応答ファイルは 198.51.100.110 にあり、win_answer_file という名前です。OS インストール ログ ファイルは、198.51.100.254 に保存されます。NI-SCU スクリプト ログ ファイルは、スクリプトが実行される同じクライアント システムに保存されます。

```
python3 os_install.py -a 198.51.100.10 -u user1 -p passwd
-m ucs-cxxx-scu-6.2.xx.iso -o vmedia -i 198.51.100.100
-d /utils_share/scu/kb -t nfs -r user2 -w passwd1 -q 120 -I 198.51.100.100
-D /niscu/new_TH2U
-F niscu_cli_remsharefile1 -T scp -U user3 -W passwd2 -x 198.51.100.254
-y /niscu/new_TH2U
-z conf_file -j sftp -b abcd -e passwd -X 198.51.100.254
-Y /niscu/answer_files
-Z rhel.cfg -J sftp -B user4 -E passwd-f log_latest
```

conf_file および niscu.cfg ファイルの例

conf ファイルの例

```
shareMapType:www
shareIp:10.10.10.10
sharePath:/path/to/iso
shareFile:rhel66.iso
userName:www
password:www
osName:rhel6u6x64
osDrive:/dev/sdk

DriveSerialNumber:Z1W4AC480000Z610ABCD

StorageControllerSlotID:MRAID

VirtualDriveNumber:0

VirtualDriveName:Hypervisor
SATAM2SSD:slot1
M2SWRAIDName:RAID00
Edition:STANDARD
```

niscu.cfg ファイルの例

```
[defaults]
use_http_secure=yes
update_timeout=120

[scu_iso]
isoshareip=10.10.10.10
isosharepath=/path/to/file
imagefile=ucs-cxx-scu.iso
isosharetype=www
isoshareuser=root
isosharepassword=password
bootmedium=vmedia
```

```
##### Section to store SCU NI-OSI logs on Remote Server #####

[output_location]
remshareip=10.10.10.10
remsharepath=/path/to/file
remsharefile=share_file
remsharetype=scp/sftp
remshareuser=root
remsharepassword=password

#####Section for a server starts here#####

[rhel_iso]
ip=10.10.10.10
path=/path/to/conf_file
file=conf_file
username=root
password=password
protocol=scp

[rhel_answerfile]
ip=10.10.10.10
path=/path/to/answer_file
file=rhel66_custom.ks
username=root
password=password
protocol=scp

[cimc_1]
address=10.10.10.10
user=admin
password=password
imagefile=ucs-cxx-scu.iso
config_section=rhel_iso
answerfile_section=rhel_answerfile
servernode=1/2/all
```




第 6 章

RAID レベルの構成

- RAID 設定 (39 ページ)
- ストレージの設定 (39 ページ)
- RAID アレイの作成 (42 ページ)

RAID 設定

RAID 設定機能を使用して、オンボードまたは PCIe でサポートされる RAID コントローラ カードを設定できます。

システムに複数の RAID コントローラがある場合、UCS-SCU は、[RAID Configuration] ページに、すべての使用可能な RAID カードと、物理および論理ディスクのリストを表示します。

次の RAID 設定オプションを使用できます。

- 単一の RAID レベル: RAID 0、RAID 1、RAID 5、および RAID 6
- ネストされた RAID レベル: RAID 10、RAID 50、および RAID 60

ストレージの設定

RAID 構成ページには、次のコンポーネントが含まれます。

表 12: RAID 構成ページ

コンポーネント	説明
物理ディスク領域	サーバで使用可能な物理ディスクのリストをテーブル形式で格納します。「物理ディスク領域 (40 ページ)」を参照してください。
論理ディスク領域	サーバで使用可能な仮想ディスクのリストがテーブル形式で含まれています。「論理ディスク領域 (41 ページ)」を参照してください。

コンポーネント	説明
[RAID の作成 (Create RAID)] ボタン	この機能を使用して、新しい RAID を作成できます。単一レベル RAID の構成 (42 ページ) およびネストされた RAID の構成 (43 ページ) を参照してください。
[RAID の削除 (Delete RAID)] ボタン	この機能を使用して、既存の RAID を削除できます。既存の RAID を削除するには、論理ディスク領域から選択し、[削除 (Delete)] をクリックします。
[Refresh] ボタン	この機能を使用して、RAID リストを更新できます。

物理ディスク領域

[RAID Configuration] ページの [Physical Disks] テーブルには、次の内容が一覧表示されます。

表 13: 物理ディスク

列	説明
Enc ID	物理ディスクの識別番号。
[スロット ID (Slot ID)]	物理ディスクが属するスロット。
デバイス ノード (Device Node)	物理ディスクが属するデバイス ノード。
Size (MB)	物理ディスクのサイズ。
シリアル番号	ディスクのステータス。詳細については、を参照してください。
状態 (State)	ディスクのステータス。詳細については、表 14 : ディスク ステータス状態 (40 ページ) を参照してください。
ブロックサイズ	物理ディスクのブロックサイズ。
タイプ (Type)	物理ディスクのタイプ。

表 14: ディスク ステータス状態

ステータス	説明
Online	ドライブが別のアレイですでに使用されています。

ステータス	説明
Global Hotspare	障害が発生したドライブが、ホットスペアドライブの容量以下である場合に、ドライブ障害があるシステム内のアレイを修復するために使用されます。
Un-configured Good	ドライブは未使用または使用可能です。
Ready	ドライブはオンラインで、正しく動作しています。
Offline	ドライブはオフラインまたは存在しません。ドライブがオンラインになるまで、ドライブに対する操作は実行できません。
Unconfigured Bad	ドライブが動作しておらず、交換する必要があります。 ステータスが「Unconfigured bad」のディスクは、RAID 設定で使用できません。
Foreign	ドライブが、他のコントローラで作成されたアレイか、あるエンクロージャ内で作成され、同じコントローラの別のエンクロージャに移動されたアレイに属しています。設定を削除した後、新しいアレイの作成に使用できます。

論理ディスク領域

[RAID 構成 (RAID Configuration)] ページの [物理ディスク (Physical Disks)] テーブルには、次の内容が一覧表示されます。

表 15: 論理ディスク

列	説明
[Select] チェックボックス	[選択 (Select)] チェックボックスを使用して、1 つ以上のディスクを選択します。
VD No	VD の ID 番号。
名前	VD の名前。
デバイス ノード (Device Node)	VD が属するデバイス ノード。

列	説明
Size (MB)	論理ドライブのサイズ。最大値は、選択した RAID レベルと、関係する物理ディスクのサイズによって異なります。
[RAID レベル (RAID Level)]	RAID 0 (データ ストライピング)、1 (ディスク ミラーリング)、5 (パリティをストライプしたデータ ストライピング)、6 (分散パリティとディスク ストライピング)。
RAID PD	VD が属する物理ディスク。

RAID アレイの作成

単一レベル RAID の構成

- Step 1** ナビゲーション ウィンドウから [サーバ構成 (Server Configuration)] > [ストレージ構成 (Storage Configuration)] を選択します。
- [RAID 構成 (RAID Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- Step 2** [RAID の作成 (Create RAID)] をクリックします。
- [RAID の構成 (Configure RAID)] ページが表示されます。
- Step 3** [RAID] ドロップダウン リストから、RAID レベルを選択します (0、1、5、6 のいずれか)。
- Step 4** 左側の [物理ディスク (Physical Disks)] リストから、[ドライブ グループ (Drive Groups)] リストに含める物理ディスクを選択します。

表 16: 必要な物理ドライブの最小数

RAID Level	必要な物理ディスクの数
RAID 0	1
RAID 1	2
RAID 5	3
RAID 6	4

- Step 5** 次の情報を入力します。

フィールド	説明
[名前 (Name)] フィールド	RAID の名前を入力します。

フィールド	説明
[読み取りポリシー (Read Policy)] ドロップダウンリスト	[読み取りポリシー (Read Policy)] リストから、RAID レベルの読み取りポリシーを選択します。
[ディスク キャッシュ ポリシー (Disk Cache Policy)] ドロップダウンリスト	[ディスク キャッシュ ポリシー (Disk Cache Policy)] リストから、RAID レベルのディスク キャッシュ ポリシーを選択します。
[ストライプ サイズ (KB)] ドロップダウンリスト	[Stripe Size] リストから、RAID レベルのストライプ サイズを選択します。
[Access Policy] ドロップダウンリスト	[アクセス ポリシー (Access Policy)] リストから、RAID レベルのアクセス ポリシーを選択します。
[キャッシュ ポリシー (Cache Policy)] ドロップダウンリスト	[Cache Policy] リストから、RAID レベルのキャッシュ ポリシーを選択します。
[書き込みポリシー (Write Policy)] ドロップダウンリスト	[Write Policy] リストから、RAID レベルの書き込みポリシーを選択します。
[サイズ (Size)] フィールドと [単位 (Unit)] ドロップダウンリスト	[サイズ (Size)] テキスト フィールドに論理ディスクのサイズを入力し、[単位 (Unit)] ドロップダウンリストから単位を選択します。

Step 6 [OK] をクリックします。

(注) [Create Drive Group] ボタンは、RAID レベルに必要な最低限の数の物理ディスクを選択するまで無効なままになります。

選択した物理ディスクが [Drive Groups] リストに追加されます。

ネストされた RAID の構成

ネストされた RAID レベルには、プライマリとセカンダリの RAID レベルがあります。ネストされた RAID レベルには2つ以上のドライブ グループを作成する必要があり、各ドライブ グループには同じ数の物理ディスクが必要です。

Step 1 ナビゲーション ウィンドウから [サーバ構成 (Server Configuration)] > [ストレージ構成 (Storage Configuration)] を選択します。

[RAID 構成 (RAID Configuration)] ウィンドウが表示されます。

Step 2 [RAID の作成 (Create RAID)] をクリックします。

[RAID の構成 (Configure RAID)] ページが表示されます。

Step 3 RAID ドロップダウンリストから、ネストされた RAID レベルを選択します（10 または 50 または 60）。

Step 4 [物理ディスク（Physical Disks）] リストから、[ドライブグループ（Drive Groups）] リストに含める物理ディスクを選択します。

表 17: 必要な物理ドライブおよびデータ グループの最小数

RAID Level	物理ディスクの最小数	データ グループの最小数
RAID 10	4	2
RAID 50	6	2
RAID 60	8	2

Step 5 次の情報を入力します。

フィールド	説明
[名前（Name）] フィールド	RAID の名前を入力します。
[読み取りポリシー（Read Policy）] ドロップダウンリスト	[読み取りポリシー（Read Policy）] リストから、RAID レベルの読み取りポリシーを選択します。
[ディスク キャッシュ ポリシー（Disk Cache Policy）] ドロップダウンリスト	[ディスク キャッシュ ポリシー（Disk Cache Policy）] リストから、RAID レベルのディスク キャッシュ ポリシーを選択します。
[ストライプ サイズ（KB）] ドロップダウンリスト	[Stripe Size] リストから、RAID レベルのストライプ サイズを選択します。
[Access Policy] ドロップダウンリスト	[アクセス ポリシー（Access Policy）] リストから、RAID レベルのアクセス ポリシーを選択します。
[キャッシュ ポリシー（Cache Policy）] ドロップダウンリスト	[Cache Policy] リストから、RAID レベルのキャッシュ ポリシーを選択します。
[書き込みポリシー（Write Policy）] ドロップダウンリスト	[Write Policy] リストから、RAID レベルの書き込みポリシーを選択します。
[サイズ（Size）] フィールドと [単位（Unit）] ドロップダウンリスト	[サイズ（Size）] テキストフィールドに論理ディスクのサイズを入力し、[単位（Unit）] ドロップダウンリストから単位を選択します。

Step 6 [OK] をクリックします。

(注) [Create Drive Group] ボタンは、RAID レベルに必要な最低限の数の物理ディスクを選択するまで無効なままになります。

選択した物理ディスクが [Drive Groups] リストに追加されます。



付録 **A**

OS のインストールの一般的な手順

- [インストールディスクの選択](#) (47 ページ)
- [ネットワーク設定](#) (47 ページ)
- [インストールドライバの選択](#) (48 ページ)

インストール ディスクの選択

[インストール用ディスク (Installation Disk)] 領域で、次の手順を実行します。

使用するインストール用ディスクのラジオ ボタンを選択します。

ネットワーク設定

ネットワーク設定では、インストール時にオペレーティングシステムによって検出されるオンボードネットワークアダプタのネットワーク設定値を入力することができます。これらの設定は、CMCのネットワーク設定に影響を与えません。オペレーティングシステムとCMCに異なるIPアドレスを設定することを推奨します。UCS-SCUで検出された各ネットワークアダプタがネットワークインターフェイスカラムに一覧表示されます。使用するオペレーティングシステムによって、オペレーティングシステムをインストールした後に、インターフェイス名が異なる場合があります。



(注) アクティブなネットワークのうち1つだけを設定する必要があり、このネットワークインターフェイスがESXi管理ネットワークになります。

[ネットワーク設定 (Network Settings)] 領域で、次の設定を行います。

Step 1 [IPv4 設定 (IPv4 Settings)] または [IPv6 設定 (IPv6 Settings)] タブを選択します。

これらのタブには、使用できるネットワーク インターフェイスのリンク ステータスと、対応する MAC アドレス、リンク ステータス、サブネット マスク、ゲートウェイ、DNSが表示されます。

Step 2 ネットワーク設定値のいずれかを編集するには、対応する行と列をダブルクリックします。
これにより、編集するフィールドがアクティブになります。

Step 3 フィールドを編集したら、**Enter** を押します。

インストール ドライバの選択

UCS-SCU は、ドライバのソースからダウンロードされる使用可能なすべてのドライバを表示します。インストールしないドライバを選択解除します。RAID ボリュームにオペレーティング システムをインストールする場合は、適切な RAID コントローラ用のドライバを選択します。

[インストール用ディスク (Installation Driver)] 領域で、次の手順を実行します。

テーブルから、インストールするドライバのチェックボックスをオンにします。

(注) 矢印キーを使用してリストを参照します。

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。

リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。

あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。